



SteelEye Protection Suite for Linux

v8.1.1

Installation Guide

December 2012

This document and the information herein is the property of SIOS Technology Corp. (previously known as SteelEye® Technology, Inc.) and all unauthorized use and reproduction is prohibited. SIOS Technology Corp. makes no warranties with respect to the contents of this document and reserves the right to revise this publication and make changes to the products described herein without prior notification. It is the policy of SIOS Technology Corp. to improve products as new technology, components and software become available. SIOS Technology Corp., therefore, reserves the right to change specifications without prior notice.

LifeKeeper, SteelEye and SteelEye DataKeeper are registered trademarks of SIOS Technology Corp.

Other brand and product names used herein are for identification purposes only and may be trademarks of their respective companies.

To maintain the quality of our publications, we welcome your comments on the accuracy, clarity, organization, and value of this document.

Address correspondence to:
ip@us.sios.com

Copyright © 2012
By SIOS Technology Corp.
San Mateo, CA U.S.A.
All rights reserved

目次

Chapter 1: SPS のインストール案内	3
システム要件	3
テクニカルノート	3
SteelEye Protection Suite ソフトウェアのパッケージ	3
SPS for Linux のインストールイメージファイル	3
SPS Core パッケージクラスタ	4
オプションのリカバリソフトウェア	4
Chapter 2: SPS 環境のプランニング	5
サーバ構成のマッピング	5
LifeKeeper ペアに対する構成マップの例	6
ストレージとアダプタの要件	6
ストレージとアダプタのオプション	7
サポートされているストレージモデル	7
サポートされているアダプタモデル	25
Chapter 3: SPS 環境のセットアップ	27
Linux OS および関連する通信パッケージのインストール	27
32ビットパッケージの依存関係	27
rpm のインストール例	28
Yum のインストール例	28
Zypper のインストール例	28
サーバと共有ストレージの接続	28
共有ストレージの設定	29
ネットワーク設定の確認	29
VLAN インターフェースサポートマトリックス	30
切り替え可能な IP アドレスの作成	31

データベースアプリケーションのインストールとセットアップ	31
GUI ユーザの設定	31
PAM による GUI の認証	31
Chapter 4: SteelEye Protection Suite ソフトウェアのインストール	34
SPS ソフトウェアのインストール	34
Chapter 5: ライセンスの取得とインストール	37
プライマリネットワークのインターフェースを変更する場合、ライセンスリホストが必要	38
インターネット/IP ライセンス	39
サブスクリプションライセンス	39
サブスクリプションライセンスのトラブルシューティング	39
インターネット Host ID の取得	40
SPS LifeKeeper インストールの確認	40
SPS のアップグレード	40
Index	43

Chapter 1: SPS のインストール案内

「SteelEye Protection Suite (SPS) Installation Guide」には、SPS 環境をプランニングおよびインストールする方法が記載されています。サーバ、ストレージデバイス、ネットワークコンポーネントをセットアップするために必要な手順の他、LifeKeeper のグラフィカルユーザインターフェース (GUI) の詳しい設定についても示されます。

このガイドの手順をすべて終われば、LifeKeeper および DataKeeper リソースを設定できる状態になります。SPS を設定するために必要な情報は、SPS for Linux テクニカルドキュメンテーションで提供されています。

システム要件

ハードウェアおよびソフトウェアの要件およびバージョンに関する総合的なリストについては、SPS for Linux リリースノートを参照してください。

また、SPS をインストールする前に、本書に記載されているプランニング作業およびハードウェア構成作業を完了していることを確認してください。

テクニカルノート

本ソフトウェアに関する問題のトラブルシューティングや制限事項などの詳細については、SPS for Linux テクニカルドキュメンテーションのテクニカルノートおよびトラブルシューティングセクションを参照してください。

SteelEye Protection Suite ソフトウェアのパッケージ

SteelEye Protection Suite (SPS) for Linux ソフトウェア (Optional SPS Recovery Kits を含む) は、単一のイメージファイル (sps.img) に格納されています。

SPS for Linux のインストールイメージファイル

SPS for Linux のイメージファイル (sps.img) は、SPS をシステムにインストールするときに必要なユーザインタラクティブなシステムセットアップ作業を実行するよう設計されたインストールスクリプト一式を提供します。インストールイメージファイルは、実行中の Linux ディストリビューションを特定し、一連の質問へのユーザの回答に基づいて、サーバ間の通信に使用される LifeKeeper API (steeleye-lkapi) を含む、SPS を正常にインストールするために必要なさまざまなパッケージをインストールします。**重要な注記:** 現在、この API は内部使用のみとして予約されていますが、将来のリリースではお客様とサードパーティが使用できるように公開される可能性があります。

ユーザに対する質問のタイプと順序は、使用している Linux のディストリビューションによって異なります。それぞれの質問をよく読んで、正しく回答してください。通常の場合は、インストールイメージファイルに必要な各手順を完了するために、それぞれの質問に **[Yes]** で回答してください。

SPS for Linux のイメージファイルには、次のソフトウェアパッケージを含む Core パッケージクラスタが格納されています。

SPS Core パッケージクラスタ

- LifeKeeper (**steeleye-ik**)。LifeKeeper Core パッケージには、メモリ、CPU、OS、SCSI ディスクサブシステム、ファイルシステムなどの中核システムコンポーネント用のリカバリソフトウェアがあります。
- LifeKeeper GUI (**steeleye-ikGUI**)。LifeKeeper GUI パッケージは、LifeKeeper の管理および監視用のグラフィカルユーザインターフェースです。
- DataKeeper (**steeleye-ikDR**)。DataKeeper パッケージは、インテントログ記録を使用するデータ複製 (同期ミラーまたは非同期ミラー) を実行します。
- IP Recovery Kit (**steeleye-ikIP**)。LifeKeeper IP Recovery Kit は、IP アドレスの自動リカバリ用のスイッチオーバーソフトウェアです。
- Raw I/O Recovery Kit (**steeleye-ikRAW**)。LifeKeeper Raw I/O Recovery Kit は、ロー I/O を使用してカーネルのバッファリングを迂回するアプリケーションをサポートします。
- CCISS Recovery Kit (**steeleye-ikCCISS**)。Hewlett-Packard (Compaq) の CCISS デバイスを DataKeeper でサポートするオプションのパッケージ(このパッケージは、SPS インストールイメージファイル上にあり、HP ストレージデバイス (CCISS) を DataKeeper とともに使用する場合にのみインストールされます。
- マニュアルページ (**steeleye-ikMAN**)。LifeKeeper マニュアルページパッケージは、LifeKeeper 製品のリファレンスマニュアルです。

オプションのリカバリソフトウェア

また、Recovery Kit は、SPS Core ソフトウェアとともにリリースされています。インストール中、提供されている最新のリカバリキットを選択可能な全リストが表示されます。リカバリキットの詳細については、SPS テクニカルドキュメンテーションのアプリケーション Recovery Kit セクションを参照してください。

Chapter 2: SPS 環境のプランニング

次のトピックは、SPS for Linux のクラスタ環境の定義に役立ちます。

サーバ構成のマッピング

以下のガイドラインを使用して、サーバ構成を文書化してください。

1. 使用する構成に対して、サーバ名、プロセッサの種類、メモリ、およびその他の I/O デバイスを決定してください。バックアップサーバを指定した場合には、プライマリサーバに障害が発生したときに、選択したサーバに処理を実行する能力があることを確認する必要があります。
2. 通信接続要件を決定してください。

重要: クラスタ化された構成には、可能性として、2種類の通信要件 (クラスタ要件とユーザ要件) があります。

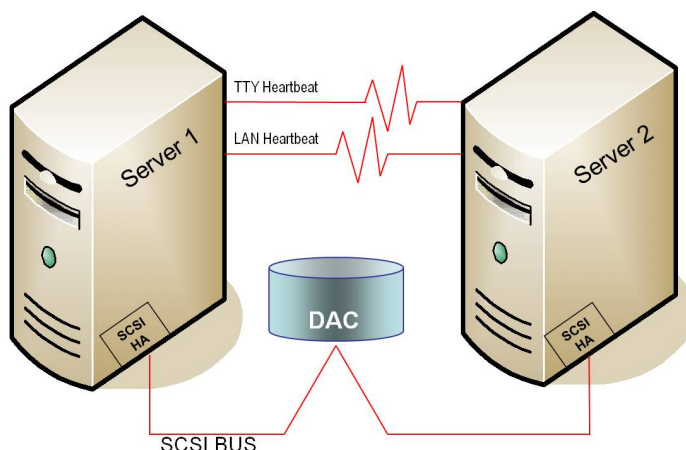
- **クラスタ** - LifeKeeper クラスタでは、サーバ間に少なくとも2つのコミュニケーションパス (「ハートビート」とも呼ばれます) が必要になります。この冗長性により、通信障害が原因で発生する「スプリットブレイン」シナリオを回避することができます。独立した2つのサブネットを使用する2つの分離した LAN ベースの (TCP) コミュニケーションパスが推奨され、これらの1つ以上をプライベートネットワークとして構成する必要があります。TCP と TTY の組み合わせもサポートされています。TTY コミュニケーションパスは、サーバのシリアルポート間で RS-232 変換モデム通信を使用します。

コミュニケーションパスを1つしか使用しない場合、互いに通信する LifeKeeper クラスタ内のシステムの機能に支障をきたす可能性があります。単一のコミュニケーションパスを使用しているときに、そのコミュニケーションパスで障害が発生した場合、複数のシステム上で同時に LifeKeeper の階層が使用可能になることがあります。これは、偽のフェイルオーバーまたは「スプリットブレイン」シナリオと呼ばれます。「スプリットブレイン」シナリオでは、各サーバが、アプリケーションを制御できると認識しているため、データにアクセスしようとして共有ストレージデバイスにデータを書き込もうとする場合があります。スプリットブレインシナリオを解決するために、LifeKeeper では、サーバの電源をオフにしたり、再起動したり、階層を使用できなくすることで、すべての共有データに対するデータの整合性を保証することができます。また、TCP コミュニケーションパス上のネットワークラフィックが大きくなると、偽のフェイルオーバーや LifeKeeper が適切に初期化できなくなるなど、予期せぬ動作が生じる可能性があります。

- **ユーザ** - ユーザトラフィックに対する代替の LAN 接続、つまり、クラスタハートビートに使用するものとは別の LAN 接続を用意することをお勧めします。ただし、(推奨通りに) 2つの TCP コミュニケーションパスを構成した場合、これらのコミュニケーションパスのいずれかが、サーバに出入りするその他のトラフィックとネットワークアドレスを共有することができます。
- **注記:** リソースが必要なおきのみ in service になるようにするには、Quorum/Witness Server Support Package for LifeKeeper を使用することができます。

- 共有リソースアクセス要件を確認して理解してください。共有ストレージを使用するクラスタは、共有 SCSI バスまたはファイバチャネルループを利用できます。LifeKeeper ではリソースが1つのサーバにロックされるため、ロックされたすべてのリソースへのアクセスが必要になるサーバは常時1つだけであることを確認する必要があります。LifeKeeper デバイスのロックは、論理ユニット (LUN) レベルで行われます。アクティブ/アクティブ構成では、各階層が独自の一意の LUN にアクセスする必要があります。共通の LUN にアクセスするすべての階層は、同じサーバ上でアクティブ (稼働中) である必要があります。
- 共有メモリ要件を決定してください。共有メモリおよびセマフォパラメータを設定する場合は、LifeKeeper だけでなくサードパーティ製アプリケーションの共有メモリ要件も考慮に入れてください。LifeKeeper の共有メモリ要件については、テクニカルノート **チューニング** を参照してください。

LifeKeeper ペアに対する構成マップの例



この構成マップの例は、ディスクアレイサブシステムを共有する LifeKeeper サーバのペアを図示しています。通常は、Server 1 がアプリケーションを実行し、Server 2 がバックアップサーバまたはセカンダリサーバになります。このケースでは、同時に1つのサーバがディスクアレイのディスクストレージスペース全体を保有しているので、ディスクリソースの競合はありません。ディスクアレイコントローラは「DAC」、SCSI ホストアダプタ (パラレル SCSI、ファイバチャネルなど) は「SCSI HA」と表記されています。

サーバのペアが、最も単純な LifeKeeper 構成となります。3つ以上のサーバで構成されるクラスタを計画する場合、複数のサーバ間が適切に接続されるようにマッピングすることが非常に重要になります。たとえば、多方向フェイルオーバー構成では、物理的な接続が存在しない場合でも LifeKeeper 内のコミュニケーションパスを定義することが可能です。カスケードフェイルオーバー機能を実現するために、各サーバがクラスタ内の他のすべてのサーバへの物理的な接続パスを持つ必要があります。

ストレージとアダプタの要件

以下のガイドラインを使用して、ストレージとホストアダプタの要件を決定してください。

ストレージデバイス-アプリケーションのデータストレージ要件に基づいて、構成に必要なデータストレージデバイスの種類と数を決定する必要があります。共有ファイルは、ディスクアレイサブシステム (RAID : Redundant Array of Inexpensive Disks) 上に置く必要があります。LifeKeeper は、構成に使用できるハードウェア RAID 周辺装置を多数サポートしています。サポートされている周辺装置のリストについては、[ストレージとアダプタのオプション](#)を参照してください。

ストレージデバイスの構成を計画する際には、以下の点を考慮してください。

- LifeKeeper では物理ディスクまたは論理ユニット (LUN) レベルでリソースを管理し、その構成内では同時に1つのサーバのみが各物理ディスクまたはLUN上のリソースを利用できます。そのため、LifeKeeper の構成を始める前に、ディスク割り当ての計画を立てることをお勧めします。たとえば、アクティブ/アクティブ構成の各階層は、独自の一意のLUNにアクセスする必要がありますので、2ノードアクティブ/アクティブ構成の場合は最低2つのLUNが必要になります。
- 一部のモデル固有の問題およびハードウェア設定の詳細は、[ストレージとアダプタの設定](#)で管理されています。

アダプタ - 構成の種類および周辺装置の数に基づいて、必要な SCSI またはファイバチャネルホストアダプタの種類と数を決定してください。選択するアダプタは、ドライバが使用できるように、LifeKeeper だけでなく使用している Linux ディストリビューションでもサポートされていることが重要です。サポートされているホストアダプタのリストについては、[サポートされているアダプタモデル](#)を参照してください。参照用に、構成マップにホストアダプタを追加する必要があります。

ストレージとアダプタのオプション

以下の表には、共有ストレージ構成で LifeKeeper が現在サポートしているディスクアレイのストレージモデルおよびアダプタが一覧表示されています。ストレージまたはアダプタモデルごとに、認定の種類が示されています。ストレージベンダが、[ストレージアダプタモデル](#)にリストされているものに関連するその他のアダプタモデルをサポートしている場合、LifeKeeper for Linux はこれらのアダプタモデルもサポートします。ドライバのバージョンと、これらのアレイとアダプタに関するその他の設定要件については、[ストレージとアダプタの設定](#)を参照してください。

IP フェイルオーバーのみを使用する非共有ストレージを含む LifeKeeper 構成あるいは SteelEye Data Replication または Network Attached Storage の使用時には、サポートされているディスクアレイおよびアダプタは必要ありません。

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
ADTX	ArrayMasStor P	パートナーのテスト
	ArrayMasStor L	パートナーのテスト
	ArrayMasStor FC-II	パートナーのテスト
Altix	TP9100	SIOS Technology Corp. のテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
Baydel Storage Arrays	DAR3 / 5SE68C	SIOS Technology Corp. のテスト
	DAR3 / C / 5SE68C	SIOS Technology Corp. のテスト
Consan	CRD5440	SIOS Technology Corp. のテスト
	CRD7220 (f/w 3.00)	SIOS Technology Corp. のテスト
DataCore	SANsymphony	SIOS Technology Corp. のテスト
Dell	650F (CLARiiON)	SIOS Technology Corp. のテスト
	Dell EMC CX3-10c / CX3-40c / CX3-20c, CX3-80 / CX3-40(F) / CX3-20(F)	パートナーのテスト
	Dell EMC CX300 / CX600 / CX400 / CX700 / CX500	SIOS Technology Corp. のテスト
	PowerVault (Dell PERC、LSI Logic MegaRAID 有り)	SIOS Technology Corp. のテスト
	Dell MD3000	パートナーのテスト
	Dell PowerVault MD3200 / 3220	パートナーのテスト
	Dell EqualLogic PS5000 および PS6000	パートナーのテスト
	Dell EqualLogic PS4000、PS6500、PS6010E/S/X/XV/XVS および PS6510E/X	ベンダのサポートステートメント
	Dell EqualLogic PS4100、PS4110、PS6100、PS6110	ベンダのサポートステートメント

ベンダ	ストレージモデル	認定
EMC	Symmetrix 3000 Series	SIOS Technology Corp. のテスト
	Symmetrix 8000 Series	ベンダのサポートステートメント
	Symmetrix DMX / DMX2	パートナーのテスト
	Symmetrix DMX3 / DMX4	パートナーのテスト
	Symmetrix VMAX Series	パートナーのテスト
	CLARiiON CX200、CX400、CX500、CX600、および CX700	SIOS Technology Corp. のテスト
	CLARiiON CX300	パートナーのテスト
	CLARiX CX3-20	パートナーのテスト
	CLaRiiON CX3FC および combo 40290	パートナーのテスト
	CLaRiiON CX310c	パートナーのテスト
	CLaRiiON AX4	SIOS Technology Corp. のテスト
	CLaRiiON AX45	パートナーのテスト
	CLaRiiON CX4-120、CX4-240、CX4-480、CX4-960	パートナーのテスト
	VNX Series 5100 / 5300 / 5500 / 5700 / 750	ベンダのサポートステートメント
FalconStor	FalconStor Network Storage Server (NSS) Version 6.15	パートナーのテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
Fujitsu	ETERNUS3000 (PG-FC105、PG-FC106、または PG-FC107 有り)、 シングルパスのみ	パートナーのテスト
	ETERNUS6000 (PG-FC106 有り)、 シングルパスのみ	パートナーのテスト
	ETERNUS4000 Model 80 および Model 100 (PG-FC106、PG-FC107、または PG-FC202 有り)、 シングルパスのみ	パートナーのテスト
	FibreCAT S80 (ストレージとアダプタの設定)	パートナーのテスト
	ETERNUS SX300 (PG-FC106 または PG-FC107 有り)、 マルチパスのみ	パートナーのテスト
	ETERNUS2000 Series: Model 50、Model 100、および Model 200 (PG-FC202 有り)、 シングルパスおよびマルチパス構成	パートナーのテスト
	ETERNUS4000 Series: Model 300 および Model 500 (PG-FC202 有り)、 シングルパスおよびマルチパス構成	ベンダのサポートステートメント
	ETERNUS DX60 / DX80 / DX90 Fibre Channel	ベンダのサポートステートメント
	ETERNUS DX60 S2 / DX80 S2 / DX90 S2 Fibre Channel	ベンダのサポートステートメント
	ETERNUS DX410 / DX440 Fibre Channel	ベンダのサポートステートメント
	ETERNUS DX410 S2 / DX440 S2 Fibre Channel	ベンダのサポートステートメント
	ETERNUS DX8100 / DX8400 / DX8700 Fibre Channel	ベンダのサポートステートメント
ETERNUS VS850	ベンダのサポートステートメント	

ベンダ	ストレージモデル	認定
Hitachi Data Systems	HDS RAID 700 (VSP)	パートナーのテスト
	HDS 7700	ベンダのサポートステートメント
	HDS 5800	ベンダのサポートステートメント
	HDS 9570V	パートナーのテスト
	HDS 9970V	パートナーのテスト
	HDS 9980V	パートナーのテスト
	AMS 500	SIOS Technology Corp. のテスト
	SANRISE USP / NSC (TagmaStore USP / NSC)	パートナーのテスト
	BR1200	パートナーのテスト
	BR1600	パートナーのテスト
	BR1600E	パートナーのテスト
	BR1600S	パートナーのテスト
	AMS2010	パートナーのテスト
	AMS2100	パートナーのテスト
	AMS2300	パートナーのテスト
	AMS2500	パートナーのテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
HP/Compaq	RA 4100	SIOS Technology Corp. のテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
	MA / RA 8000	SIOS Technology Corp. のテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
	MSA1000 / MSA1500 (アクティブ/アクティブおよびアクティブ/パッシブファームウェア構成)	SIOS Technology Corp. のテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
	HP MSA1000 Small Business SAN Kit	SIOS Technology Corp. のテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
	HP P2000 G3 MSA FC(RHEL5.4 上の DMMP 有り)	SIOS Technology Corp. のテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
	HP P2000 G3 MSA SAS	パートナーのテスト
	HP P4000 / P4300 G2	SIOS Technology Corp. のテスト
	HP P4000 VSA	ベンダのサポートステートメント
	HP P4500 G2	ベンダのサポートステートメント
	HP P6300 EVA FC	パートナーのテスト
	HP P9500	ベンダのサポートステートメント
	HP XP20000 / XP24000	SIOS Technology Corp. のテスト
	3PAR T400 Fibre Channel	パートナーのテスト
	3PAR F200 / F400 / T800 Fibre Channel	ベンダのサポートステートメント
	3PAR V400	パートナーのテスト
	3PAR StoreServ 7200 FC (DMMP Recovery Kit を使用したマルチパス構成)	パートナーのテスト
	3PAR StoreServ 7400 FC (DMMP Recovery Kit を使用したマルチパス構成)	パートナーのテスト
	3PAR StoreServ 7400 iSCSI (Quorum/Witness Kit を使用)	パートナーのテスト
	EVA3000 / 5000	SIOS Technology Corp. およびパートナーのテスト
	EVA4X00 / 6X00 / 8X00 (XCS 6.x series firmware)	SIOS Technology Corp. およびパートナーのテスト
	EVA4400	パートナーのテスト
	EVA6400 / 8400	パートナーのテスト
	EVA8100 (XCS 6.x シリーズファームウェア)	パートナーのテスト
	MSA2000 Fibre Channel	パートナーのテスト
	MSA2000 iSCSI	パートナーのテスト
	MSA2000 SA	パートナーのテスト
	MSA 2300 Fibre Channel	パートナーのテスト
	MSA2300 i	パートナーのテスト
	MSA2300 SA	パートナーのテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
IBM	FAStT200	SIOS Technology Corp. のテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
	FAStT500	SIOS Technology Corp. のテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
	DS4100 *	パートナーのテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
	DS4200	パートナーのテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
	DS4300 (FAStT600) *	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS4400 (FAStT700) *	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS4500 (FAStT900) *	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS4700	パートナーのテスト
	DS4800	パートナーのテスト
	DS4300 (FAStT600)	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS4400 (FAStT700)	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS5000	パートナーのテスト
	ESS Model 800 *	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS6800 *	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS8100 *	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS400 (シングルパスのみ)	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS3200	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS3300	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS3400	SIOS Technology Corp. のテスト
	DS3500	SIOS Technology Corp. のテスト
	IBM eServer xSeries Storage Solution Server Type445-R for SANmelody	パートナーのテスト
	IBM eServer xSeries Storage Solution Server Type445-FR for SANmelody	パートナーのテスト
	IBM SAN Volume Controller * * IBM TotalStorage Proven	SIOS Technology Corp. のテスト
	IBM Storwize V7000 FC/iSCSI	パートナーのテスト
	IBM XIV Storage System	パートナーのテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
JetStor	JetStor II	SIOS Technology Corp. のテスト
MicroNet	Genesis One	ベンダのサポートステートメント
MTI	Gladiator 2550	ベンダのサポートステートメント
	Gladiator 3550	ベンダのサポートステートメント
	Gladiator 3600	ベンダのサポートステートメント
NEC	NEC iStorage M100 FC (シングルパス)	パートナーのテスト
	NEC iStorage M10e / M300 / M500 / M700 FC (シングルパス)	パートナーのテスト
	NEC iStorage S500 / S1500 / S2500 (シングルパス)	SIOS Technology Corp. のテスト
	NEC iStorage S Series (シングルパス)	ベンダのサポートステートメント
	NEC iStorage D1-10 / D1-30 (シングルパス)	ベンダのサポートステートメント
	NEC iStorage D3-10 / D1-10 (シングルパス)	パートナーのテスト
	NEC iStorage D3-10 / D3-30 (シングルパス)	パートナーのテスト
	NEC iStorage D8-10 / D8-20 / D8-30 (シングルパス)	パートナーのテスト

サポートされているストレージモデル

ベンダ	ストレージモデル	認定
Network Appliance (NetApp)	NAS	ベンダのサポートステートメント
	FAS2xx Series	ベンダのサポートステートメント
	FAS9xx Series	ベンダのサポートステートメント
	FAS2xxx Series	ベンダのサポートステートメント
	FAS3xxx Series	ベンダのサポートステートメント
	FAS6xxx Series	ベンダのサポートステートメント
	SAN	ベンダのサポートステートメント
	FAS3xxx Series (QLogic QLE246x および DMMP 有り)	ベンダのサポートステートメント
Newtech	SweeperStor SATA	パートナーのテスト
	SweeperStor SAS	パートナーのテスト
nStor	NexStor 4320F	パートナーのテスト
ProCom	Reliant 1000	ベンダのサポートステートメント
Radion Systems	Rack U2W	ベンダのサポートステートメント
	Microdisk U2W	ベンダのサポートステートメント
SGI	InfiniteStorage 4600	パートナーのテスト
	Linux MPP ドライバ	パートナーのテスト
SILVERstor	Giant GT-3000 シリーズ	パートナーのテスト
Sun	StorEdge 3310	パートナーのテスト
	StorEdge 3510 FC (Sun StorEdge 2Gb PCI Single FC Network Adapter 有り)	パートナーのテスト
	StorEdge 6130 FC (Sun StorEdge 2Gb PCI Single FC Network Adapter 有り)	パートナーのテスト
	StorageTek 2540 (Sun StorageTek 4Gb PCI-E Dual FC Host Bus Adapter または Sun StorageTek 4Gb PCI Dual FC Network Adapter 有り)	パートナーのテスト

ベンダ	ストレージモデル	認定
TID	MassCareRAID	パートナーのテスト
	MassCareRAID II	パートナーのテスト
Winchester Systems	FlashDisk OpenRAID (SCSI)	SIOS Technology Corp. のテスト
	FlashDisk OpenRAID (FC)	SIOS Technology Corp. のテスト
Xiotech	Magnitude 3D	SIOS Technology Corp. のテスト

サポートされているアダプタモデル

アダプタの種類	アダプタモデル	認定
差動型 SCSI アダプタ	Adaptec 2944 W, Adaptec 2944 UW、または Adaptec 2940 U2W	SIOS Technology Corp. のテスト
	Compaq 64bit PCI Dual Channel Wide Ultra2 SCSI Adapter	SIOS Technology Corp. のテスト
	Compaq SA 5i、6i、532、および 642 PCI Dual Channel Wide Ultra3 SCSI Adapters	SIOS Technology Corp. のテスト
	Dell PERC 2/DC、PERC 4/DC	SIOS Technology Corp. のテスト
	LSI Logic MegaRAID Elite 1600 (Dell PERC 3/DC はこのアダプタの OEM バージョンです)	SIOS Technology Corp. のテスト
	Adaptec 39160	パートナーのテスト
	Adaptec ASR-2010S (Fujitsu PG-140C / CL) – 注記を参照	ベンダのサポートステートメント
	Adaptec ASR-3200S (Fujitsu PG-142B /C /D) – 注記を参照	ベンダのサポートステートメント
	LSI Logic MegaRAID SCSI 3200-2 (Fujitsu PC-142E) – 注記を参照	ベンダのサポートステートメント
	注記:IP フェイルオーバーのみを使用する非共有ストレージを含む LifeKeeper 構成あるいは SteelEye Data Replication の使用時には、これらのアダプタは Fujitsu のテストを受けます。	

サポートされているアダプタモデル

アダプタの種類	アダプタモデル	認定
ファイバチャンネル	QLogic QLA 2100、QLogic QLA 2200、QLogic QLA 2340、QLogic QLA 200 (HP Q200)	SIOS Technology Corp. のテスト
	HP StorageWorks 2GB 64-bit / 133MHz PCI-X to Fibre Channel Host Bus Adapter (FCA2214)	SIOS Technology Corp. のテスト
	Compaq 64 bit / 66MHz Fibre Channel Host Bus Adapter 120186-B21	SIOS Technology Corp. のテスト
	Sun StorEdge 2Gb PCI Single FC Network Adapter (OEMed QLogic QLA 2310)	パートナーのテスト
	Sun StorageTek 4Gb PCI-E Dual FC Host Bus Adapter	パートナーのテスト
	Sun StorageTek 4Gb PCI Dual FC Network Adapter	パートナーのテスト
	Emulex LP9002 (PG-FC105)、Emulex LP1050、Emulex LP10000 (これらのアダプタに必要なドライバおよびバージョンについては、Emulex ドライバを参照してください。)	SIOS Technology Corp. のテスト
	HP QLogic QMH2462 4Gb FC HBA	パートナーのテスト
	Qlogic QLE2460 (4Gb HBA)、Qlogic QLE2462 (4Gb HBA)	パートナーのテスト
	FC1142SR 4Gb シングルチャンネル PCI-Express Fibre Channel アダプタ	パートナーのテスト
FC1242SR 4Gb デュアルチャンネル PCI-Express Fibre Channel アダプタ	パートナーのテスト	
Serial Attached SCSI (SAS)	DELL SAS 5/e アダプタ	パートナーのテスト

SIOS Technology Corp. では、ファイバチャンネルのハブとスイッチを特に認定していません。これは、これらのデバイスに対する LifeKeeper 固有の既知の制限事項や要件がないためです。ストレージとアダプタの設定の指定されたアレイで特に記載のない限り、LifeKeeper は、ディスクアレイベンダがサポートするハブとスイッチを推奨します。

Chapter 3: SPS 環境のセットアップ

これまでのセクションでは、要件を決定し、LifeKeeper 設定をマッピングしました。これで、SPS 環境のコンポーネントをセットアップできるようになりました。

注記: 一部のセットアップ作業は異なる順序で実行することが可能ですが、このリストは推奨された順序で示されています。

Linux OS および関連する通信パッケージのインストール

SPS for Linux ソフトウェアをインストールする前にLinux オペレーティングシステムが正常にインストールされ動作可能であることを確認する必要があります。完全なインストールの詳細については、Linux のディストリビューションに付属のLinux インストール手順書を参照してください。



重要: LifeKeeper GUI Client がユーザを正しく認証するには、PAM 関連パッケージの 32 ビットバージョンが必要になります。

注記:

- 必要なパッケージに必要な依存関係について詳しくは、「テクニカルノート」トピックの[SPS パッケージの依存関係](#) および[32ビットパッケージの依存関係](#)を参照してください。
- 共有ストレージを接続して設定した後にLinux をインストールすることも可能ですが、新しい周辺装置を導入する前に、Linux をインストールして実行する方が簡単な場合があります。
- SPS for Linux のインストールイメージファイルは、SPS をシステムにインストールするときに必要なユーザインタラクティブなシステムセットアップ作業とインストール作業を実行するよう設計されたインストールスクリプト一式を提供します。

32 ビットパッケージの依存関係

SPS をインストールする前に、オペレーティングシステムのインストールメディアに含まれている次のパッケージをインストールしてください。SPS セットアップ実行前にこれらのパッケージがインストールされていない場合、セットアップは正常に完了しません。64 ビットシステム上でも、これらのパッケージの 32 ビットバージョンが必要であることを注意してください。また、このリストは、すべてを包括するものではないことに注意してください。ベースパッケージとLinux OS ディストリビューションによっては、追加のパッケージの依存関係が必要になることがあります。また、特定のオプションのソフトウェアコンポーネントがインストールされていることを設定スクリプトが検出した場合、追加のパッケージの依存関係が必要になることがあります。



重要: LifeKeeper GUI Client がユーザを正しく認証するには、PAM 関連パッケージの 32 ビットバージョンが必要になります。

rpm のインストール例

- compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.i686
- libgcc-4.4.4-13.el6.i686
- nss-softokn-freebl-3.12.7-1.1.el6.i686
- glibc-2.12-1.7.el6.i686
- libXau-1.0.5-1.el6.i686.rpm
- libxcb-1.5-1.el6.i686.rpm
- libX11-1.3-2.el6.i686.rpm
- libXext-1.1-3.el6.i686.rpm
- libXi-1.3-3.el6.i686.rpm
- libXtst-1.0.99.2-3.el6.i686.rpm
- zlib.i686
- bzip2-libs.i686
- pam.i686
- libselinux.i686
- cracklib.i686
- audit-libx.i686
- db4-i686

注記: 事前定義されたソフトウェアリポジトリを検索することで依存関係を自動的に解決するよう設計されたリポジトリベースのパッケージマネージャ (yum や zypper など) を使用することで、これらの必要なパッケージのインストールが容易になります。

rpm のインストール例

```
rpm -ivh <package(s)>
```

Yum のインストール例

```
Yum install <package(s)>
```

Zypper のインストール例

```
Zypper install <package(s)>
```

サーバと共有ストレージの接続

非共有ストレージ環境で LifeKeeper を使用することを計画している場合は、この情報をスキップできま

す。データレプリケーション(ミラーリング)環境で LifeKeeper を使用している場合は、この文書の DataKeeper セクションを参照してください。ネットワーク接続ストレージ環境で LifeKeeper を使用している場合は、LifeKeeper Network Attached Storage Recovery Kit 管理ガイドを参照してください。

Linux がインストールされたら、ホストアダプタおよび共有周辺装置のアドレスを設定する必要があります。具体的な詳細については、アダプタおよびストレージデバイスに付属のドキュメンテーションを参照してください。

共有ストレージの設定

LifeKeeper では、共有 SCSI (Small Computer System Interface) ホストアダプタおよび共有ディスクハードウェアの機能を使用して、障害が発生したサーバから指定のバックアップサーバにリソースを切り替えるように設定できます。ファイバチャネルのストレージエリアネットワーク (SAN) も、障害の発生したサーバから指定のバックアップサーバにリソースを切り替えるのに使用できます。

以下の作業を実行して、ディスクベースのアプリケーションリソース階層を作成し、LifeKeeper でファイルサーバ保護を提供できるようにしてください。

1. ディスクおよび LUN のパーティションを分割してください。LifeKeeper の保護下にあるすべてのディスクのパーティションを分割する必要があるため、共有ディスクアレイは論理ユニット (LUN) に設定する必要があります。ディスクアレイ管理ソフトウェアを使用して、この設定を実行してください。詳細な手順については、ディスクアレイソフトウェアのマニュアルを参照してください。

注記: LifeKeeper では LUN レベルでディスクをロックすることに注意してください。したがって、アクティブ/スタンバイ設定では 1 つの LUN が適切と考えられます。ただし、アクティブ/アクティブ設定を使用する場合は、少なくとも 2 つの別個の LUN を設定して、各階層が独自の一意の LUN にアクセスできるようにする必要があります。

2. 両方のサーバが共有ディスクを認識することを確認してください (fdisk コマンドなどを使用)。作成した LUN を Linux が認識しない場合は、LifeKeeper も認識しません。
3. LifeKeeper 階層でプライマリサーバとして使用するシステムから共有ディスク上のファイルシステムを作成してください。ファイルシステムの管理に関する完全な手順については、Linux のマニュアルを参照してください。

ネットワーク設定の確認

LifeKeeper をインストールする前に、ネットワークが適切に設定され動作することを確認することが重要です。ネットワークの動作を確認するために、この時点で実行する必要のある作業を以下に示します。

1. サーバインストールでファイアウォールが有効の場合、LifeKeeper のポートを調整するか、ファイアウォールを無効にする必要があります。ファイアウォール下で LifeKeeper を実行する。
2. 各サーバから、ローカルサーバを ping し、クラスタ内の他のサーバを ping してください。ping が失敗した場合には、必要なトラブルシューティングを行い、修正処置を実行してください。
3. サーバに複数のネットワークアダプタがある場合は、アダプタが異なるサブネット上にあるように設定する必要があります。アダプタが同じサブネット上にある場合、TCP/IP は 2 つ目のアダプタを有効に利用できません。
4. localhost がクラスタ内の各サーバで解決可能であることを確認してください。DNS が実装されていない場合は、/etc/hosts ファイルを編集して、localhost 名のエントリを追加してください。この

VLAN インターフェースサポートマトリックス

エントリは、ローカルサーバの IP アドレスをリストしたり、デフォルトのエントリ (127.0.0.1) をリストすることができます。localhost が解決できない場合、LifeKeeper GUI が正常に機能しない可能性があります。

- DNS が実装されている場合は、LifeKeeper クラスタ内のサーバが DNS を使用して解決できるように設定されていることを確認してください。
- 各サーバのホスト名が正しく、LifeKeeper をインストールした後に変更されないことを確認してください。後で LifeKeeper システムのホスト名を変更するように決定した場合は、クラスタ内のすべてのサーバについて以下の手順に従う必要があります。

- 次のコマンドを使用して、クラスタ内のすべてのサーバ上の LifeKeeper を停止してください。

```
/etc/init.d/lifekeeper stop-nofailover
```

- Linux `hostname` コマンドを使用して、サーバのホスト名を変更してください。
- 続行する前に、新しいホスト名がクラスタ内の各サーバで解決可能であることを確認する必要があります (前の項目を参照)。
- クラスタ内の各サーバで次のコマンドを実行して、LifeKeeper のホスト名を更新してください。(詳細については、`lk_chg_value(1M)` を参照してください。)

```
/opt/LifeKeeper/bin/lk_chg_value -o oldhostname -n  
newhostname
```

- 次のコマンドを使用して LifeKeeper を起動してください。

```
/etc/init.d/lifekeeper start
```

LifeKeeper for Linux v7.x では、コミュニケーションパスおよび IP リソース用の VLAN インターフェースがサポートされています。VLAN インターフェースの種類は、以下に示すように選択することができます。

VLAN インターフェースサポートマトリックス

- サポートなし \ x サポートあり

LK Linux v7.1 以前のバージョン

VLAN_NAME_TYPE	コミュニケーションパス	IP リソース
DEV_PLUS_VID (eth0.0100)	-	x
DEV_PLUS_VID_NO_PAD (eth0.100)	-	x
VLAN_PLUS_VID (vlan0100)	x	x
VLAN_PLUS_VID_NO_PAD (vlan100)	x	x

LK Linux v7.2 以降のバージョン

VLAN_NAME_TYPE	コミュニケーションパス	IP リソース
DEV_PLUS_VID (eth0.0100)	x	x
DEV_PLUS_VID_NO_PAD (eth0.100)	x	x
VLAN_PLUS_VID (vlan0100)	x	x
VLAN_PLUS_VID_NO_PAD (vlan100)	x	x

切り替え可能な IP アドレスの作成

切り替え可能な IP アドレスとは、サーバ間で切り替えることができる「仮想的な」IP アドレスです。各サーバのネットワークインターフェースカードに関連付けられた IP アドレスとは別個のもので、LifeKeeper の保護下にあるアプリケーションは、切り替え可能な IP アドレスに関連付けられています。これにより、プライマリサーバで障害が発生した場合、その IP アドレスがバックアップサーバに「切り替わり」ます。

切り替え可能な IP アドレスに対してリソース階層を設定することを計画している場合は、クラスタの各サーバで以下の作業を実行する必要があります。

- コンピュータ名が正しく、変更されないことを確認する。
- ping コマンドを使用して切り替え可能な IP アドレスが一意であることを確認する。
- `/etc/hosts` ファイルを編集して、切り替え可能な IP アドレスごとにエントリを追加する。

詳細については、LifeKeeper for Linux IP Recovery Kit テクニカルドキュメンテーションを参照してください。

データベースアプリケーションのインストールとセットアップ

お使いの環境に Oracle、MySQL などの保護されたデータベースアプリケーションが含まれている場合は、データベースに付属のドキュメンテーションを使用してアプリケーションをインストールする必要があります。データベースが共有ファイルシステム上にあり、設定ファイルが共有ファイルシステム上にあることを確認してください。実行可能ファイルは、ローカルまたは共有のファイルシステム上に置くことができます。

LifeKeeper をインストールした後にアプリケーションをインストールすることも可能ですが、LifeKeeper の保護下に置く前に、適切に設定され稼動することを確認するためにアプリケーションをテストする必要があります。その他のインストールおよびセットアップの特定の考慮事項については、LifeKeeper データベースリカバリキットドキュメンテーションを参照してください。

GUI ユーザの設定

PAM による GUI の認証

SPS for Linux は、Linux Standard Base (LSB) で提供されている Pluggable Authentication Module (PAM) を利用するようになりました。SPS では、以前 `/opt/LifeKeeper/website/passwd` に置かれていた個別のパスワードファイルを現在は使用していません。それに代わり、ユーザは、システムの

PAM設定に対して識別および認証されます。権限のレベルは、PAMが提供するグループメンバシップから決定されます。



重要: LifeKeeper GUI クライアントでユーザを正常に認証するには、32ビットバージョンのPAM関連のパッケージがすべてが必要です。

GUIにアクセスするには、ユーザはLifeKeeperの次の3つのグループのいずれかのメンバーである必要があります: `lkadmin`、`lkoper` または `lkguest`。これらのグループのメンバシップは、クラスタ全体で使用されているユーザアカウントデータベースのタイプに応じた適切な方法により、システム管理者が設定してください。

LifeKeeperのこれら3つのグループには、それぞれの権限セットが用意されています ([権限テーブル](#)を参照)。

1. クラスタ全体にわたって **Administrator (管理者)** の権限を持つユーザ (`lkadmin`) は、GUI から可能な動作のすべてを実行できます。
2. 1台のサーバ上で **Operator (オペレータ)** の権限を持つユーザ (`lkoper`) は、LifeKeeper の設定やステータスの情報を表示でき、そのサーバ上のリソースを in service や out of service にできます。
3. 1台のサーバ上で **Guest (ゲスト)** の権限を持つユーザ (`lkguest`) は、そのサーバの LifeKeeper の設定やステータスの情報を表示できます。

GUIパッケージのインストール時に、そのシステムの `root` ユーザはシステムのローカルグループデータベースの `lkadmin` グループに自動的に追加されるので、`root` は、そのサーバから GUI アプリケーションまたは Web クライアント経由で LifeKeeper のすべての作業を実行できます。`root` 以外のユーザに LifeKeeper GUI クライアントの使用を許可するように計画している場合は、ユーザを適切なグループに追加することにより LifeKeeper GUI のユーザを設定する必要があります。

NIS、LDAP、AD などの非ローカルデータベースを使用するように PAM を設定している場合は、それらのデータベースでアカウントが正しく設定されていることをシステム管理者は確認する必要があります。上記のグループが存在していなければなりません。また、LifeKeeper GUI へのログインが許可されているユーザがそれらのグループの1つに属するメンバでなければなりません。これらのグループは、リモートデータベース内のみで作成する必要があり、ローカルの `/etc/group` ファイルからは削除する必要があります。

バージョン 8.1.1 より前の LifeKeeper からアップグレードする場合、古い `/opt/LifeKeeper/website/passwd` のすべてのエントリをグループメンバシップの新しいメカニズムに追加しようとします。ユーザが再作成されない場合は、対応する LifeKeeper のグループに割り当てられないため、手動で追加する必要があります。

注記: 混乱を避け整合性を保つため、LDAP、NIS、AD などのより複雑な PAM 設定を利用する場合は、SPS のインストールまたはアップグレードを実行する前に、すべてのユーザアカウントおよび LifeKeeper グループアカウントを準備しておいてください。

最良の方法は、常にクラスタ全体を単位として許可を付与することです。サーバ単位で許可を付与することもできますが、ユーザを混乱させてしまい、管理作業が実行できなくなります。

Chapter 4: SteelEye Protection Suite ソフトウェアのインストール

SPS ソフトウェアを、SPS 設定内の各サーバにインストールします。各 SPS サーバには、オプションの SPS Recovery Kit パッケージを含む、設定要件をサポートするために必要なパッケージがインストールされている必要があります。



重要: SPS for Linux をインストールする前に、[32ビットパッケージの依存関係](#)トピックと、「[テクニカルノート](#)」トピックの[パッケージの依存関係](#)の内容を確認してください。

SPS Core パッケージクラスタおよび他のオプションのリカバリキットは、SPS インストールイメージファイル (*sps.img*) を使用して、コマンドラインでインストールします。このイメージファイルは、SPS をシステムにインストールするときに必要なユーザ対話型のシステムセットアップ作業を実行するよう設計されたインストールスクリプト一式を提供します。インストールイメージファイルは、実行中の Linux ディストリビューションを特定し、一連の質問へのユーザの回答に基づいて、SPS を正常にインストールするために必要なさまざまなパッケージをインストールします。サーバの Host ID を取得および表示するユーティリティを提供するライセンスユーティリティパッケージもインストールされます。Host ID は、SPS を実行するための有効なライセンスを取得するために使用されます。

詳細については、SPS for Linux リリースノートを参照してください。

注記: これらのインストール手順は、読者がサーバにインストールされた Linux オペレーティングシステムに精通していることを前提としています。



重要:

- SPS の共有ストレージへのインストールはサポートされていません。各サーバのローカルディスクに独自のコピーをインストールする必要があります。
- すべての SPS パッケージは、`/opt/LifeKeeper` ディレクトリにインストールされます。
- LifeKeeper の既存バージョンを再インストールする場合、最初に、古い LifeKeeper パッケージを削除する必要があります。標準の LifeKeeper のインストールには、既存のリソース階層の再定義が必要になります。現在のリソース階層定義を保持するには、SPS for Linux リリースノートを参照するとともに、アップグレード手順については [SPS のアップグレード](#) を参照してください。
- SPS のインストール中に、LifeKeeper Distribution Enabling Package を参照するエラーメッセージが表示された場合、SPS インストールイメージファイル上の `setup` スクリプトを実行または再実行する必要があります。

SPS ソフトウェアのインストール

SPS は、使用している Linux ディストリビューションに関わらず、コマンドラインでインストールされます。

1. 次のコマンドを使用して、`sps.img` ファイルをマウントしてください。

```
mount PATH/IMAGE_NAME MOUNT_POINT -t iso9660 -o loop
```

ここで、PATH はイメージへのパスです
 IMAGE_NAME はイメージの名前です
 MOUNT_POINT はマウント位置へのパスです

2. `sps.img` がマウントされたディレクトリに移動して、次のコマンドを入力してください。

```
./setup
```

3. インストール手順の間に何が行われるかを説明するテキストが表示されます。ここで行われる一連の質問に対して、**Yes** の場合は「y」、**No** の場合は「n」と答えます。質問の種類と順序は、お使いの Linux ディストリビューションによって異なります。

各質問をよく読んで、適切に回答してください。It is recommended that you answer **Yes** to each question in order to complete all the steps required for a successful SPS インストールを正常に行うために必要なすべての手順を最後まで行うには、各質問に **Yes** と答えることを推奨します。

注記: インストールイメージファイルは、共有ストレージデバイスまたはオプションの NFS Recovery Kit をサポートするために、カーネルモジュールをインストールすることがあります。

注記: SPS 8.1 以降、RedHat Enterprise Linux システムでカーネルのアップグレードを実行する際、インストールイメージから `setup` スクリプト (`./setup`) を再実行する必要はなくなりました。カーネルが適切な RedHat package (rpm file) からインストールされている限り、モジュールはアップグレードしたカーネルで特別な操作を必要とせずに、自動的に使用可能になります。

4. 次に、SPS [Core パッケージ](#) がインストールされます。
5. ここで `setup` スクリプトが、[ライセンスユーティリティのインストール](#) を実行します。詳細については、[ライセンスの取得とインストール](#) を参照してください。
6. `setup` スクリプトが提示するすべての質問に回答した後、インストールが成功したことが通知され、インストール可能なすべての SPS Recovery Kit の一覧が表示されます。

注記: `setup` スクリプトの実行に関する追跡情報が、`/var/log/LK_install.log` に保存されます。

注記: アップグレードの際には、セットアップの実行前に LifeKeeper を停止するようにしてください。

注記: SPS for Linux バージョン 8.1 より前のバージョンでは、Core パッケージのインストールが完了した後、リカバリキットをインストールするには、個々のイメージファイルから行う必要がありました。現在では、パッケージがインストールされた後、使用可能なキットの一覧が表示され、そこから選択できます。

7. インストールするキットを反転選択し、「スペース」キーを押してください。インストール予定のキットの横に「i」のマークが付きます。

注記: 後でキットを追加するには、`-k` を付けて `setup` スクリプトを実行します。

```
./setup -k
```

8. 必要に応じて、クラスタ内の他のサーバ上に同じ手順で SPS ソフトウェアをインストールします。

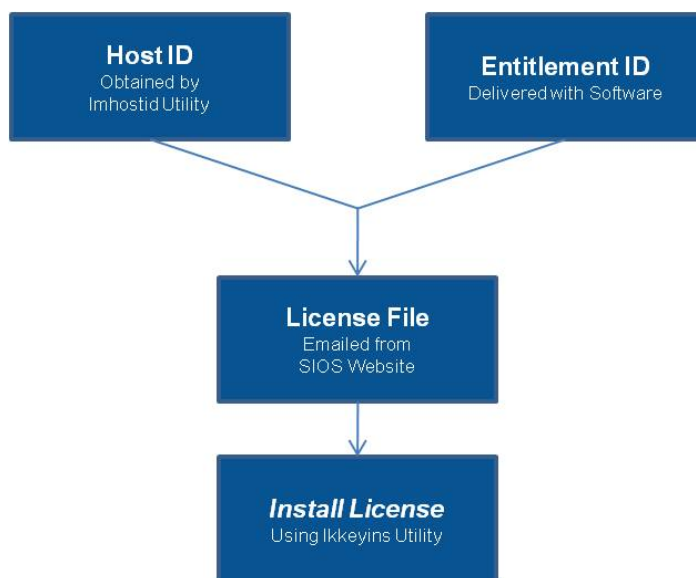
アップグレード方法については、[SPS のアップグレード](#) を参照してください。

Chapter 5: ライセンスの取得とインストール

SPS for Linux では、サーバごとに別々のライセンスが必要です。ライセンスは、ランタイムライセンスです。つまり、SPS のインストールはライセンスなしでも可能ですが、正常に製品を起動して実行するためには、事前にライセンスをインストールする必要があります。

注記: RHEL 6.1 で新しいハードウェアを使用している場合、SPS for Linux のトラブルシューティングセクションの IP ライセンシングの既知の問題を参照してください。

インストールスクリプトは、サーバの Host ID を取得して表示するライセンスユーティリティパッケージをインストールします。(インストールスクリプトを介して表示される Host ID は、常に MAC アドレスの Host ID になります。IP アドレスの Host ID を使用する場合は、[インターネット Host ID の取得](#)トピックを参照してください。)SteelEye Protection Suite ソフトウェアと一緒に提供された Host ID と Entitlement ID (認証コード) は、SteelEye Protection Suite を実行するために必要なパーマネントライセンスを取得するために使用されます。このプロセスを以下の図に示します。



注記: ソフトウェアパッケージごとに、サーバごとのライセンスが必要になります。

SPS クラスタ内の各サーバについてライセンスを取得してインストールするには、次の手順を行います。

1. Host ID を取得してください。インストールセットアップスクリプトのライセンスユーティリティで表示される Host ID をメモしてください。Host ID は、ライセンスを取得するシステムで `/opt/LifeKeeper/bin/lmhostid` を実行して取得することもできます。
2. Host ID をノートに書き留めるか、ファイルに保存してください。ファイルに保存した場合は、そのファイルをインターネットアクセスが可能なシステムにコピーしてください。ノートに書き留めた場

プライマリネットワークのインターフェースを変更する場合、ライセンスリホストが必要

合は、そのノートをインターネットアクセスが可能なシステムのあるところに持って行ってください。

3. **LifeKeeper Entitlement ID (認証コード) があることを確認してください。**ライセンスの取得に必要な Entitlement ID を含むソフトウェアをメールで受け取っているはずですが。
4. **SIOS Technology Corp. ライセンス管理ポータルでライセンスを取得してください。**
 - a. インターネットアクセスが可能なシステムを使用して、[SIOS Technology Corp. ライセンス管理ポータル](#)にログインしてください。
 - b. **[Manage Entitlements]** を選択してください。

注記: パスワードを変更する場合は、画面の右上隅にある **[Profile]** ボタンを使用してください。
 - c. **[Entitlement ID]** を探して、行項目の左にあるボックスをオンにすることで、その Entitlement ID に関連付けられた各 **[Activation ID]** を選択してください。
 - d. **[Activate]** タブを選択してください。
 - e. 必要なフィールドを定義して、**[Next]** を選択してください。
 - f. **[Select Existing Host]** をクリックして定義済みのホストを選択するか、**[Add New Host]** を選択することで新しいホストを作成してください。
 - g. **[ホスト ID]** を入力して、**[Okay]** をクリックしてください。
 - h. **[ホスト ID]** の左にあるボックスをオンにして、**[Generate]** を選択してください。**[Fulfillment ID]** が **[License Summary]** 画面に表示されます。
 - i. **[Fulfillment ID]** の左にあるボックスをオンにして、**[Email License]** タブを選択してください。
 - j. ライセンスの送信先となる有効なメールアドレスを入力して、**[Send]** を選択してください。
 - k. **[Complete]** を選択してください。
 - l. メールを取得してください。
 - m. ファイルを適切なシステムにコピーしてください。
5. **ライセンスをインストールしてください。**各システムで、ライセンスファイルを `/var/LifeKeeper/license` にコピーするか、または各システムで、`/opt/LifeKeeper/bin/lkkeyins` を実行してファイルに対するファイル名 (フルパスを含む) を指定してください。

プライマリネットワークのインターフェースを変更する場合、ライセンスリホストが必要

ライセンスユーティリティで使用するホスト ID は、LifeKeeper サーバのプライマリネットワークインターフェースカード (NIC) から取得されます。LifeKeeper では、起動するたびにライセンスが有効かどうかを確認します。LifeKeeper サーバで、将来、NIC の交換が必要になり、ホスト ID が変更されることになる場合は、次回 LifeKeeper を停止するときに、LifeKeeper を再起動する前にライセンスリホストを実行する必

要があります。[SIOS Technology Corp. ライセンス管理ポータル](#)にログインして、[Manage Licenses] 画面から [Support Actions/Rehost] を選択して、このリホストを実行してください。(注記: リホストは、サポートに連絡することなく、6カ月に一度実行することができます。)

インターネット/IP ライセンス

インターネット/IP ライセンシングの詳細については、SPS for Linux のトラブルシューティングセクションの既知の問題および[インターネット HOST ID の取得](#)を参照してください。

サブスクリプションライセンス

サブスクリプションライセンスとは、更新機能を持つ期限付きライセンスです。評価版ライセンスと同様に、更新せずに一定期間を過ぎるとライセンスが切れます。この更新プロセスを自動的に行うようにするには、以下の手順に従います。(注記: サブスクリプション更新サービスでは、TCP/IP ポート 443 で SIOS Technology Corp. ライセンス管理サーバにアクセスするためにインターネット接続が必要になります。)

1. 次のコマンドを実行してください。/opt/LifeKeeper/bin/runSubscriptionService start
2. プロンプトが表示されたら、(SIOS Technology Corp. カスタマー登録で取得した) ユーザIDとパスワードを入力してください。

前の手順が正常に実行された場合は、サブスクリプション更新サービスが実行されるようになり、バックグラウンドで更新ステータスのチェックが定期的に行われます。特定の日数 (90、60、30、20、10、5、4、3、2、1) 後に期限が切れるライセンスが見つかったら、syslog (/var/log/messages) に警告通知が送信され、ライセンスの更新が実行されます。新しいライセンスのアクティベーションが可能な (このシステムの Entitlement に対して新しいアクティベーションが購入されている) 場合、自動的にアクティベーションが実行され、古いライセンスを交換するシステム上に新しいライセンスがインストールされます。このシステムに対するライセンスが更新される (アクティベーションが購入される) 限り、このサービスにより、ユーザが操作することなく、システム上でライセンスのアップグレードが確実に実行されます。

サブスクリプションライセンスのトラブルシューティング

エラーが発生した場合は、サポートに連絡する前に以下の作業を実行してください。

- LifeKeeper Log と syslog (/var/log/messages) のエラーメッセージを確認してください。必要に応じて、次のコマンドを実行してメッセージを取得してください。

```
/opt/LifeKeeper/bin/lmsubscribe --immediate
```

- [SIOS Technology Corp. ライセンス管理ポータル](#)にログインして、資格情報を確認してください。
- 次のコマンドを使用して資格情報を入力してください。

```
/opt/LifeKeeper/bin/lmsubscribe --login
```

これが正常に実行された場合は、次のコマンドを実行してサービスを開始してください。

```
/opt/LifeKeeper/bin/runSubscriptionService start
```

インターネット Host ID の取得

- ライセンス管理ポータルでパスワードを変更した場合は、次のコマンドを実行して、自動ライセンス更新サービスをアップデートしてください。

```
/opt/LifeKeeper/bin/lmsubscribe --login
```

- ライセンス証明書の所有権が変更された場合は、SIOS Technology Corp. のサポート担当者に連絡して、証明書を新しい所有者に移転してください。所有権が移転されたら、この新しい資格情報を使用して自動ライセンス更新サービスをアップデートする必要があります。この操作を実行するには、新しいユーザIDとパスワードを使用して次のコマンドを実行してください。

```
/opt/LifeKeeper/bin/lmsubscribe --login
```

インターネット Host ID の取得

マシンのインターネット Host ID を取得するには、Imhostid を使用します。インターネット Host ID は、通常、システムのプライマリネットワークワークインターフェースのプライマリ IP アドレスです。インターネット Host ID は、Ethernet (または MAC) Host ID の代替として使用することができ、VM クローンのために MAC アドレスが変更される可能性がある仮想環境において望ましいと考えられます。

1. 次のコマンドを入力してください。

```
# /opt/LifeKeeper/bin/Imhostid -internet -n
```

2. プログラムから返される ID を記録してください。

例:

```
# /opt/LifeKeeper/bin/Imhostid -internet -n
```

```
"INTERNET=172.17.100.161"
```

注記: この情報は、SIOS Technology Corp. から取得したパーマネントライセンスキーに記載されている情報と一致する必要があります。

SPS LifeKeeper インストールの確認

SPS LifeKeeper パッケージが正しくインストールされていることを確認するには、コマンドラインで次のコマンドを入力してください。

```
rpm -V <package name>
```

注記: パッケージが正しくインストールされている場合、このコマンドは何も出力しません。

コマンドラインからクエリを実行するには、次のコマンドを入力してください。

```
rpm -qi <package name>
```

注記: このコマンドの予想される出力は、パッケージ情報です。

SPS のアップグレード

SPS for Linux は、既存の階層を保ちながら将来のリリースにアップグレードすることができます。この情報をよく検討して、アプリケーションのダウンタイムを最小限に抑えるようにしてください。

注記: 最新バージョンの LifeKeeper にアップグレードできるのは、2 世代前までのバージョンです。それより前のバージョンからアップグレードする場合、古いバージョンをアンインストールし、SteelEye Protection Suite for Linux を再インストールする必要があります。旧バージョンをアンインストールする代わりに、旧バージョンを 1 世代前もしくは 2 世代前のバージョンにアップグレードした上で、最新バージョンにアップグレードする方法もあります。

注記: アップグレード中に lkbbackup を使用する場合の詳細については、lkbbackup の既知の問題を参照してください。

注記: バージョン 8.1.1 以降、SPS では、GUI によるユーザ認証に PAM を使用するようになりました。この変更により、旧 `/opt/LifeKeeper/website/passwd` に含まれるエントリを新しいグループメンバシップメカニズムに追加する処理が実行されます。ユーザが再作成されない場合、対応する LifeKeeper グループにユーザが割り当てられないため、手作業で追加する必要があります。混乱を防ぎ、LDAP、NIS、AD などのより複雑な PAM 設定を活用する際の一貫性を保つため、SPS をアップグレードする前に、すべてのユーザと LifeKeeper グループアカウントが存在することが推奨されます。



重要: LifeKeeper GUI Client がユーザを正しく認証するには、PAM 関連パッケージの 32 ビットバージョンが必要になります。

1. ノードが 2 つのみの SPS クラスタをアップグレードする場合、直接手順 2 に進んでください。ノードが 2 つを超える SPS クラスタをアップグレードする場合、アップグレードのために、すべてのアプリケーションをそのサーバ外部に切り替えてください。この操作を実行するには、手動で行うか、または LifeKeeper シャットダウンストラテジーを「**Switchover**」に設定します。これにより、LifeKeeper が停止したり、サーバがシャットダウンしたときにアプリケーションが切り替えられます。
2. 必要な場合、SPS をアップグレードする前に、Linux オペレーティングシステムをアップグレードしてください。オペレーティングシステムのアップグレードを実行する前に、アップグレードするサーバのすべてのリソースを拡張解除することをお勧めします。
3. SPS インストールイメージファイルを使用して、SPS をアップグレードします。次のコマンドを使用して、SPS インストールイメージファイルをマウントしてください。

```
mount PATH/IMAGE_NAME MOUNT_POINT -t iso9660 -o loop
```

ここで、PATH はイメージへのパスです

IMAGE_NAME はイメージの名前です

MOUNT_POINT はマウント位置へのパスです

4. `sps.img` がマウントされたディレクトリに移動して、次のコマンドを入力してください。

```
./setup
```

パッケージがアップグレードされていることを確認する情報メッセージが表示されます。

5. 使用可能な SPS Recovery Kit の一覧が表示されます。既にインストールされている各リカバリキットの横に「u」のマークが表示され、そのキットがアップグレードされることを示します。その他のキットをインストールする場合、そのキットを反転選択し、「スペース」キーを押します。インストール予定のキットの横に「i」のマークが付きます。

注記: SPS for Linux バージョン 8.1 より前のバージョンでは、Core パッケージのアップグレードが完了した後、リカバリキットをアップグレードするには、個々のイメージファイルから行う必要があります。

した。現在では、パッケージがアップグレードされた後、現在インストールされており自動アップグレードされるキットの一覧が表示されるとともに、その他のキットを選択してインストールすることも可能です。

注記: 後でキットを追加するには、-k を付けて setup スクリプトを実行します。

```
./setup -k
```

- アップグレードが終了したら、LifeKeeper GUI を停止してから再起動し、更新された GUI クライアントをロードしてください。
- ノードが2つを超える SPS クラスタをアップグレードした場合、アップグレードされたサーバにすべてのアプリケーションを戻します。
- この手順を SPS クラスタ内のアップグレード対象の各サーバに対して実行します。



注意: 同じクラスタ内のすべてのシステム上に、同じバージョンおよびリリースの SPS をインストールする必要があります。通常、バージョンまたはリリースの異なる SPS には互換性はありません。ローリングアップグレード以外の状況で、異なるバージョンまたはリリースが存在し、クラスタ内の別のシステムで実行されている場合には、LifeKeeper を起動しないでください。

Index

	A
AD 32	
	G
GUI	
ユーザの設定 31	
	L
LDAP 32	
	N
NIS 32	
	P
PAM 31	
	ア
アダプタのオプション 7	
アップグレード 40	
	イ
インストール 33	
コマンドライン 34	
ライセンス 37	
確認 40	
インターネット Host ID 40	
	サ
サーバ構成のマッピング 5	
	ス
ストレージのオプション 7	

	デ
データベースアプリケーション 31	
	パ
パッケージ 3	
	ラ
ライセンス 37	
	環
環境	
セットアップ 27	
	権
権限 32	
	切
切り替え可能な IP アドレス 31	
	接
接続	
サーバと共有ストレージ 28	
	設
設定	
ネットワーク	
ネットワーク設定の確認 29	
共有ストレージ 29	
	要
要件	
ストレージとアダプタ 6	